

「大豆ミートに関する消費者の意識調査」結果概要

NACS 西日本支部 食活研究会

【はじめに】

近年、マスコミ等で大豆ミートや培養肉などの代替肉の話題が取り上げられることが増えている。その背景には地球環境、食料需給の深刻な問題がある。

まず、地球温暖化の原因となる温室効果ガスの排出量のうち、全体の3割が食由来、そのうちの57%が畜産物の消費に伴う排出量というデータがある（IPCC2019 土地利用関係特別報告書）。さらに牛のげっぷや家畜のおなら、排泄物からは、温室効果ガスであるメタンガスが排出され、放牧や飼料となるたくさんの穀物の栽培のための森林伐採も、温暖化の要因となる。昨年はCOP26が開催され食の分野でのカーボンニュートラルも議論されたが、環境に負担がかからない食が求められるようになってきている。一方、世界人口は2050年には98億人に増加すると予測され、それに伴って食料需要（特に食肉の需要）も増え、食料危機やたんぱく質危機が懸念されている。

食活研究会は、2021年度の活動の一環として、代替肉の中でも植物性の「大豆ミート」は消費者の健康志向にもマッチし、大手食品会社やベンチャー企業が続々と参入していることから、「大豆ミート」について、様々な角度から調べてみることにした。

その取り掛かりとして、「大豆ミートに関する消費者の意識調査」を実施した。本調査報告は、一連の調査活動のうち、消費者意識調査に関する報告である。

【調査概要】

（1）調査目的

消費者の意識を探り、大豆ミートを正しく理解できるような啓発につなげる。
事業者は消費者の意識、ニーズを伝える。

（2）調査対象

NACS 会員及び一般消費者 回答者数 219 人

（3）調査期間及び調査方法

調査期間 2021 年 8 月～10 月

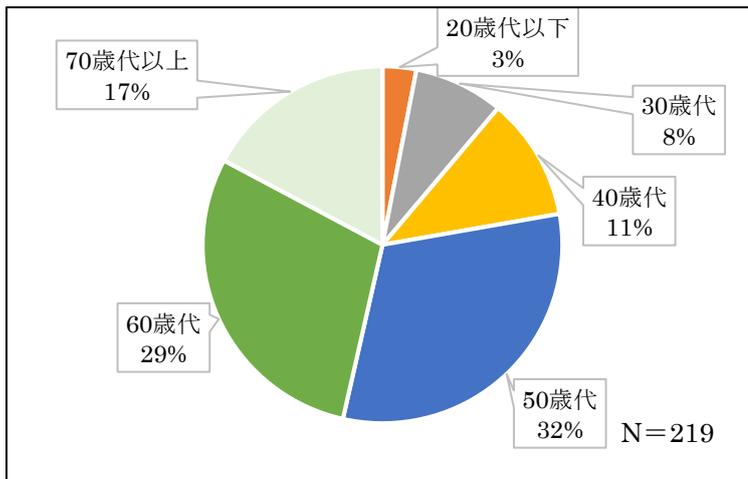
調査方法 WEB 調査（Google フォームを使用）

（4）調査項目（＜ ＞内はアンケート質問番号）

- ①肉食の頻度と肉を食べる理由 <質問 3><質問 4>
- ②大豆ミートの認知度 <質問 5>
- ③大豆ミートを食べた経験 <質問 6>
食べた理由及び食べない理由 <質問 7-1><質問 7-2>
- ④大豆ミートに期待すること <質問 8>
- ⑤これからの肉食についてどう思うか<質問 9>

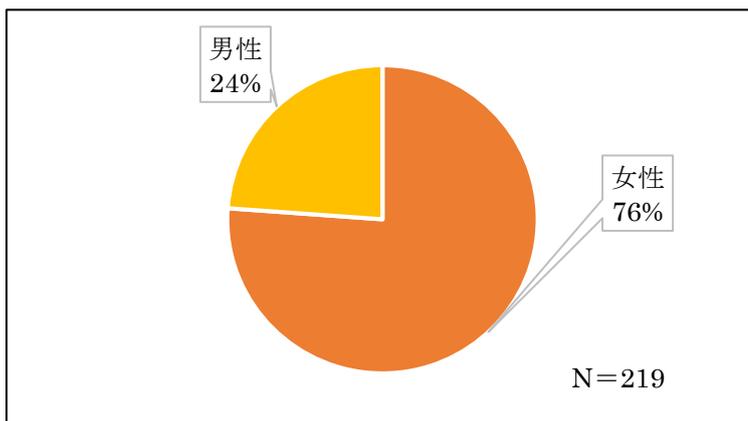
【調査結果】

<質問 1>回答者の年代



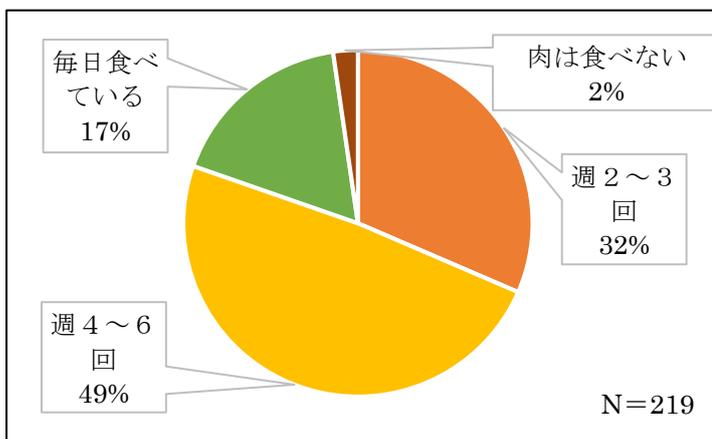
50歳代以上が78%で、高めの年齢層である。
30歳代以下は合わせて11%であった。

<質問 2>回答者の性別



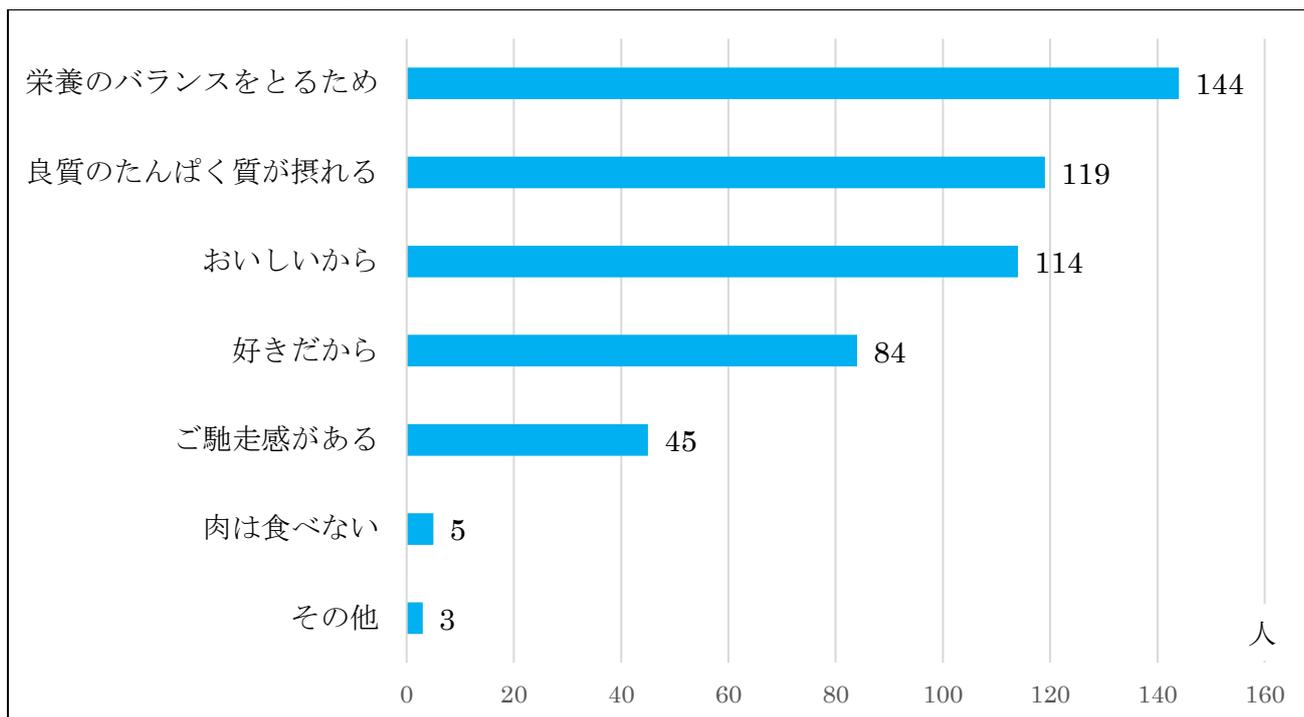
女性が76%、男性24%であった。

<質問 3>あなたはどのくらいの頻度で肉（豚肉、牛肉その他の獣肉、鶏肉、その他の鳥肉）を食べますか？



「週 4~6 回」、「毎日食べる」を合わせると、7割近くの人が週 4 回以上、肉を食べている。
「肉は食べない」人は 5 人であった。

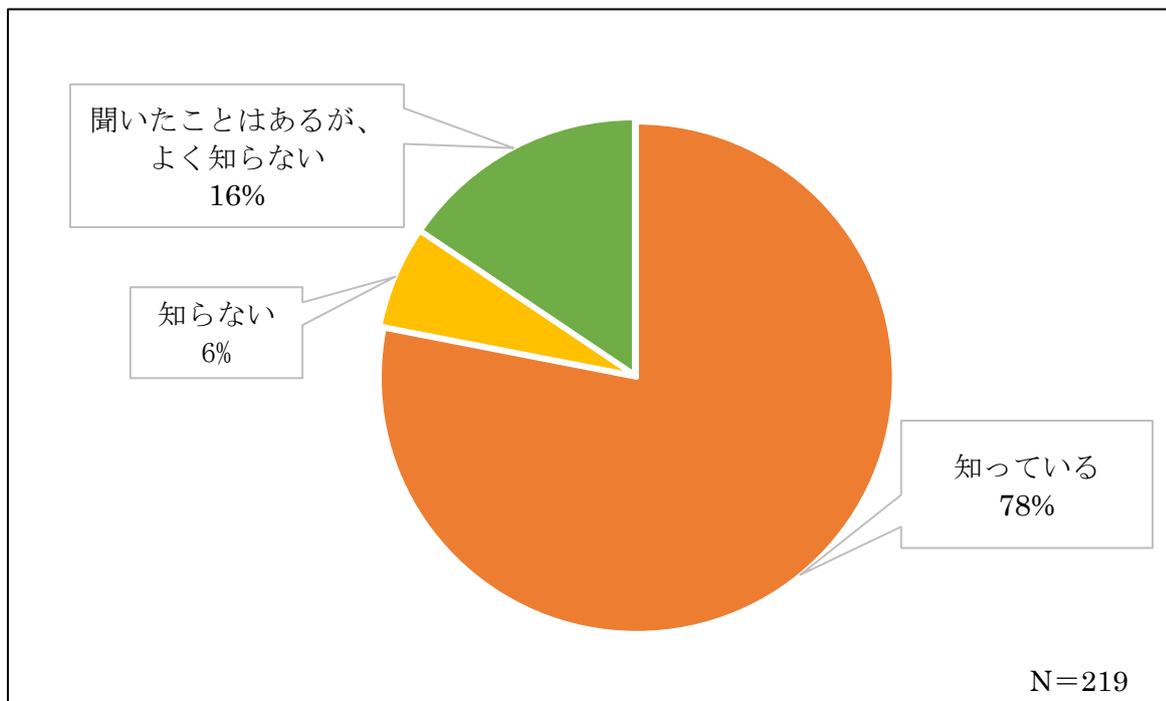
<質問 4>肉を食べる理由は、次のうちどれですか？（3 つまで選択可）



最も多かったのは「栄養のバランスをとるため」続いて「良質のたんぱく質が摂れる」で、栄養面から肉を食べるとい人が多い。

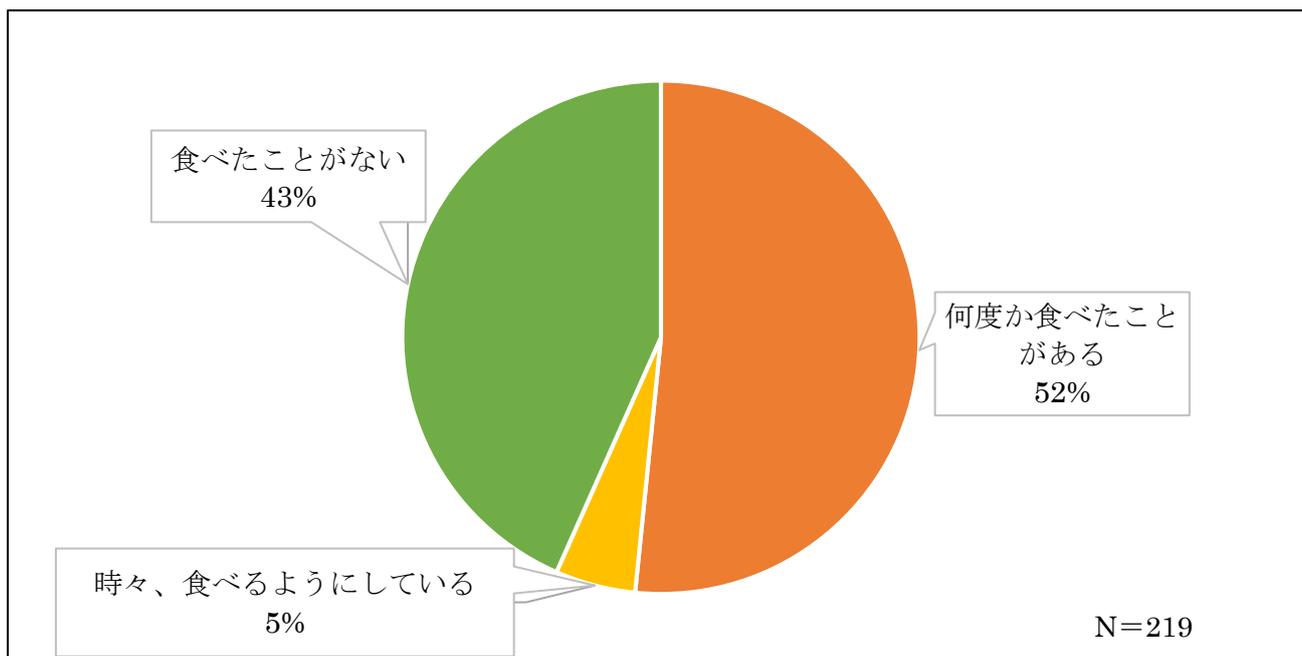
その他として「魚より安い」「作り置きしやすい」などの理由も見られた。

<質問 5>大豆ミートを知っていますか？



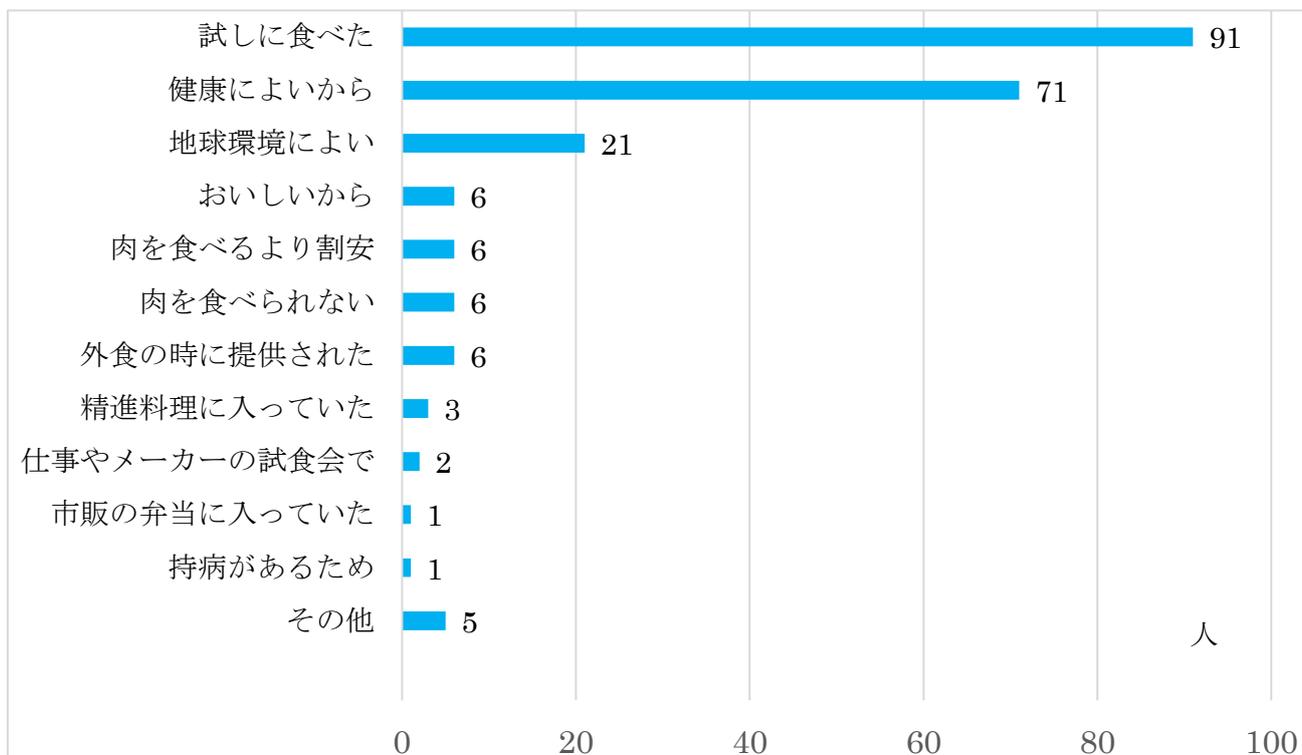
「知っている」人は78%、8割近い。

<質問 6>大豆ミートを食べたことがありますか？



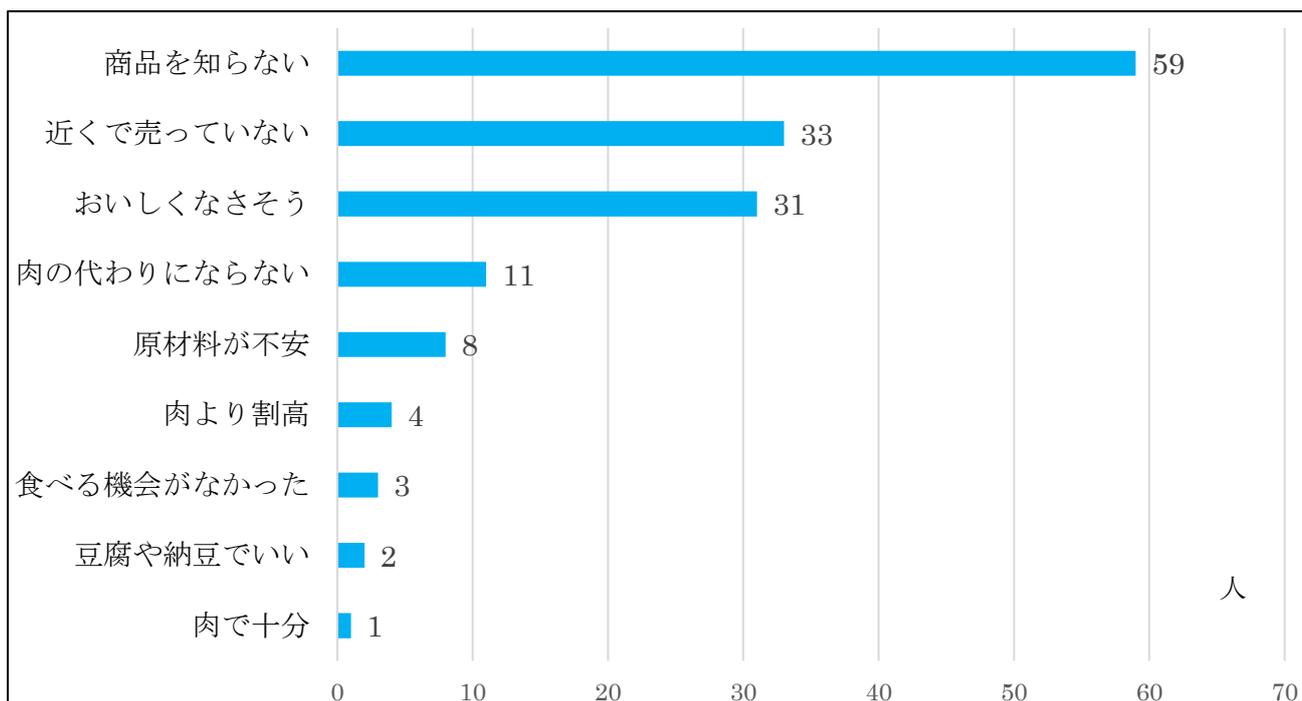
大豆ミートを「食べたことがない」という人は43%であった。
「日常的に食べている」人は、いなかった。

<質問 7-1>大豆ミートを食べた理由は次のうち、どれですか？（3つまで選択可）



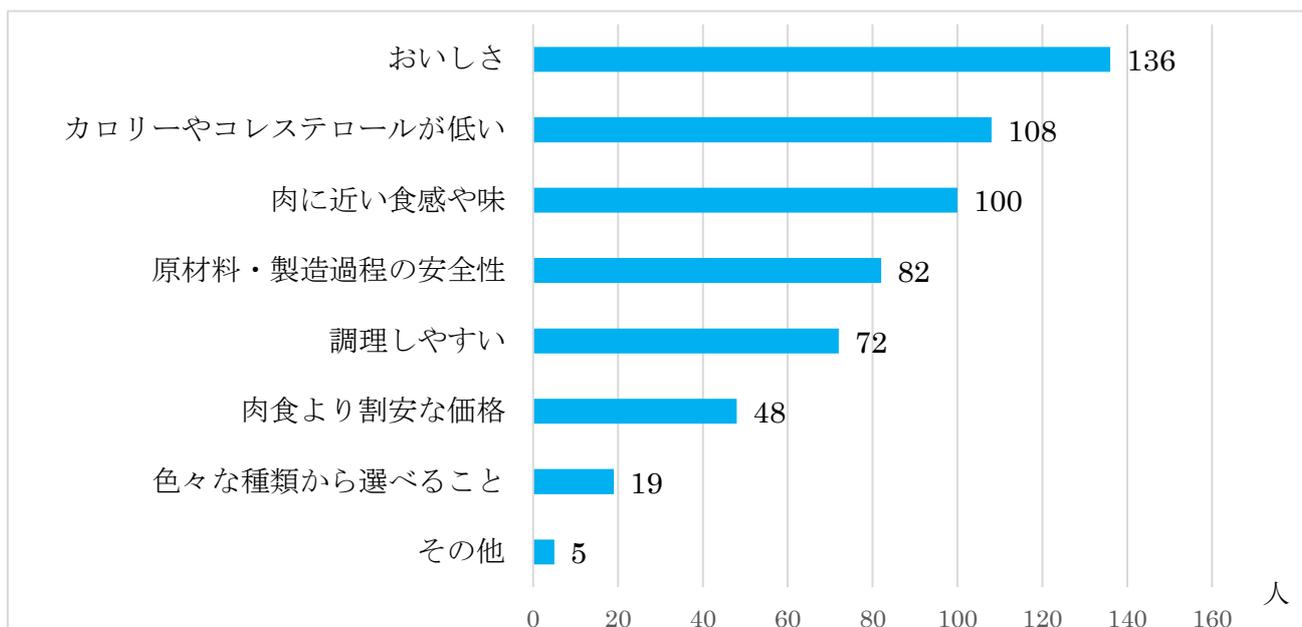
最も多かったのは「試しに食べた」で、「健康によいから」「地球環境によい」が続く。
外食時や弁当の中に入っていたなど、提供されたから食べたという人が一定数いる。

<質問 7-2>大豆ミートを食べたことのない方に質問です。食べない理由は次のうち、どれですか。
(3つまで選択可)



「商品を知らない」が最も多く、「近くで売っていない」が続いた。「肉の代わりにならない」と回答した人は40歳代が最多であったが、50歳代、60歳代にもみられた。「原材料に不安がある」人は8人で60歳代に多かった。

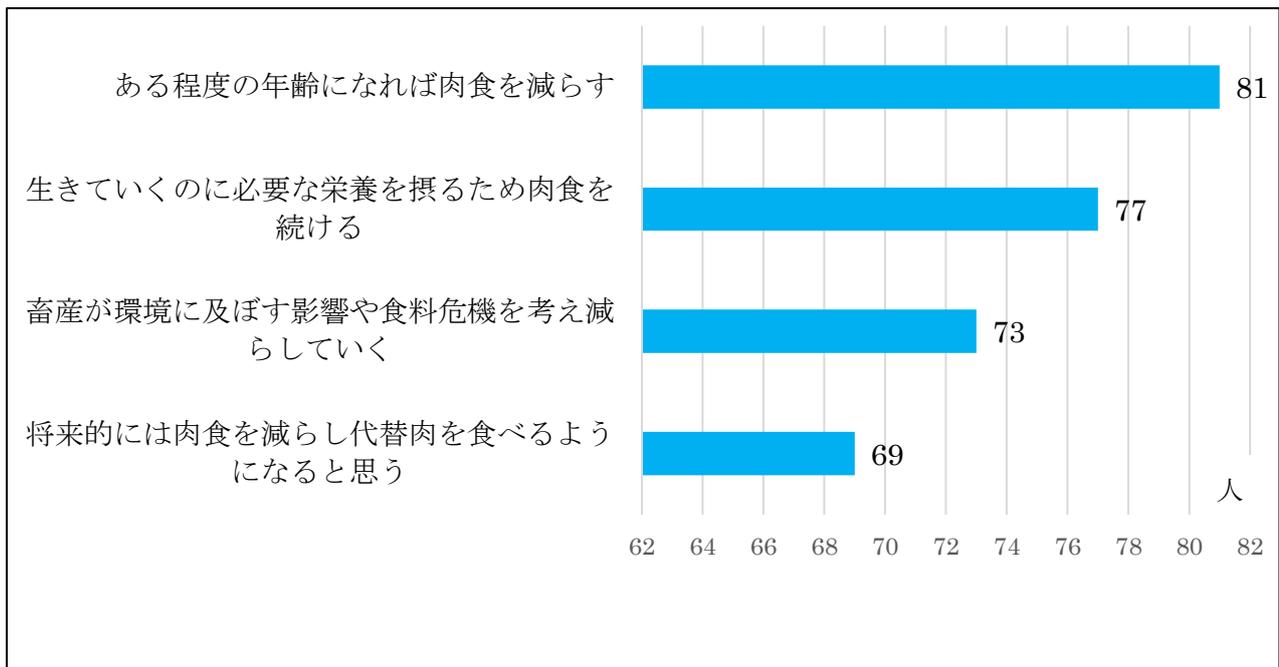
<質問 8>大豆ミートに期待することは何ですか？ (3つまで選択可)



質問 7-2 では食べない理由として「おいしくなさそう」が3番目にあがっていたが、そのイメージが強いのか、「おいしさ」が第1位であった。「肉に近い食感や味」は若い年代の回答者に多い。

「原材料・製造過程の安全性」は年代の高い回答者に多かった。

<質問 9> これからの肉食について、どう思いますか？（3 つまで選択可）



「ある程度の年齢になれば肉食を減らす」が最も多い。環境配慮は3番目であった。複数回答のため、「ある程度の年齢になれば肉食を減らす」と回答した人も、「必要な栄養を摂るため肉食を続ける」「畜産が環境に及ぼす影響や食料危機を考え減らしていく」という回答を選択した人も多かった。

「その他」には、「肉食をその他に置き換えていく理由を深く考えていなかった」「考えたことがなかった」という回答もあった。

【まとめ】

- ①調査時点では、大豆ミートを知っている人は多いが、食べたことがある人は約半数であった。食べた理由も日常的に食べている人はおらず、試しに食べた、出されたから食べたという消極的な理由が多かった。
- ②大豆ミートを食べない理由に、「近くで売っていない」「商品を知らない」が多かった。大都市の大型店舗、インターネットなどでは入手しやすいが、調査と同じ時期に、研究会メンバーが普段買い物に行く食品スーパーで探すと、販売されていない、どこにあるか見つけにくい、種類が少ないということがあり、この時点ではまだ一般的な食品とは言えないようであった。
- ③大豆ミートに期待することは、「おいしさ」が最多。「カロリーやコレステロールが低い」という健康や栄養面への期待が続いた。「肉に近い食感や味」と回答した人は若い人に多く、質問4で肉を食べる理由に「おいしさ」「楽しみ」「好きだから」と回答した人の期待と考えられる。
- ④7割近くの人が週4回以上肉を食べている。食べる理由として、健康や栄養面の理由を挙げる人が多かった。子どもの成長期には動物性たんぱく質が必要というコメントも見られた。
- ⑤これからの肉食をどう思うかについても、健康や栄養面から肉食を考える人が多く、環境と食生活

を結び付けて考えることは、調査時点では最優先ではないようである。

【調査結果を踏まえて】

大豆ミートは、本調査を実施した時点では、マスコミで報じられるほど一般的な食品ではなかったが、2022年に入って、研究会メンバーが普段利用している食品スーパーで観察したところ、以前はわかりにくかった売り場がわかりやすくなっていたり、たくさんの種類を揃えたコーナーができたりしている店舗もあった。レストランなどでも大豆ミートメニューを提供しているところが増えている。消費者のニーズが高まってきていると考えられ、調査時点より食べたことがある人も増えていることだろう。

肉食に関しても環境配慮より健康や栄養面を考える人が多かったが、アンケート回答を通じて、肉食の将来や環境に配慮した食生活について考えるきっかけになったのではないかな。

大豆ミートは、昔から植物性たんぱく質を上手に摂ってきた日本人の食生活になじみやすく、昆虫食や他の新しい食品に比較すると、抵抗感が少ない食品と考えられる。ただ、大豆ミート製品を購入する際には、表示をよく見て何が使われているか確認することが重要である。中には、肉を使っていたり、大豆ミートの大豆臭を押さえるために濃い味付けになっていたりするものもある。ヴィーガン認証やJASマーク*が付けられている製品もあるので、自分が食べたいものかどうか、選択の目安としたい。

私たちの提案は、「今すぐ肉食をやめて、大豆ミートを食べましょう」ということではなく、あくまでも「バランスのよい食事」を前提に、「大豆ミートも、選択肢の一つに入れませんか」ということである。世界には、肉を食べ過ぎていたり、捨てている人がいる一方で、飢餓に苦しんでいる人もいる。自分の食生活を見直すことは、誰もが健康的な食生活を送るために寄与すると思われる。

2022年度も引き続き「新しい食品の動き」をテーマとして活動を行うが、大豆ミートに関する消費者意識の変化なども継続的に調べ、新しい食品とどう向き合うべきか考えていきたい。

* 2022年2月24日、既存製品の中には食肉を含むものも大豆ミートとして販売されていたことから、消費者の選択に資するため大豆ミート食品類のJAS規格が制定された。「大豆ミート食品」と「調製大豆ミート食品」の2食品の要件が定義されている。

(農林水産省 HP https://www.maff.go.jp/j/jas/jas_kikaku/kokujikaisei.html 参照)

以上

問合せ先 食活研究会 west-syokukatu@nacs.or.jp

大豆ミートに関する調査 NACS 西日本支部 食活研究会

最近、大豆ミート*などの代替肉が話題になっています。その背景には、消費者の健康志向、地球の持続可能性や食料危機の観点から代替肉の開発が進められているといった動きがあります。食活研究会では、大豆ミートに対する消費者の意識やニーズを調査し、消費者として知っておきたいことを探るため、消費者調査を実施します。つきましては、どうぞご協力くださいますようお願いいたします。

*大豆ミートとは大豆を 100%または主原料とし、大豆の油分を搾油して過熱加圧・高温乾燥させるなど加工した、肉の代わりとして食べる食品です。

1. 年代

- ①20 歳代以下 ②30 歳代 ③40 歳代 ④50 歳代 ⑤60 歳代 ⑥70 歳代以上

2. 性別

- ①男性 ②女性

3. あなたは週に何回くらい肉（豚肉、牛肉、その他の獣肉、鶏肉、その他の鳥の肉）を食べますか？

- ①毎日食べている
②週 4～5 日食べている
③週 2～3 日食べている
④肉は食べない

4. 肉を食べる理由

- ①良質のたんぱく質が摂れるから
②食事の栄養バランスをとるために必要だから
③おいしいから
④好きだから
⑤ご馳走感があり楽しみになるから
⑥肉は食べない
⑦その他

5. あなたは大豆ミートを知っていますか

- ①知っている
②知らない

6. 大豆ミートを食べたことがありますか？

- ①日常的に食べている
②時々食べるようにしている
③何度か食べたことがある
④食べたことはない

7-1. 大豆ミートを食べた理由は次のうち、どれですか。

- ① 栄養成分が豊富で、カロリーが低くコレステロールが少ないなど健康によいから

- ② 地球環境によいから
- ③おいしいから
- ④肉を食べるより割安だから
- ⑤肉を食べることができないから（ヴィーガン、ヴェジタリアン、肉アレルギー、宗教上の理由など）
- ⑥試しに食べてみようと思ったから
- ⑦食べたことはない
- ⑧その他

7-2. 大豆ミートを食べたことのない方に質問です。食べない理由は次のうち、どれですか？
（3つまで選択可）

- ①大豆アレルギーがあるから
- ②おいしくなさそうだから
- ③調理が面倒そうだから
- ④肉の代わりにはならないから
- ⑤原材料に不安がある
- ⑥商品を知らない
- ⑦近くで売っていない
- ⑧その他

8. 大豆ミートに期待することは何ですか？（3つまで選択可）

- ①肉に近い食感や味
- ②カロリーやコレステロールを心配せずに食べられること
- ③おいしさ
- ④調理しやすいこと
- ⑤色々な種類から選べること
- ⑥原材料、製造過程について安心できること
- ⑦肉食より割安な価格であること
- ⑧その他

9. これからの肉食について、どう思いますか？（3つまで選択可）

- ①人間が生きていくために必要な栄養を摂るため、これまで通り肉食を続ける
- ②畜産が環境に及ぼす影響や食料危機を考え、肉食を減らしていく
- ③ある程度の年齢になったら、健康のために肉食を減らしていく
- ④将来的には肉食を減らし、代替肉を食べるようになると思う
- ⑤その他

※いただきました情報は、本調査のみに使用させていただきます。

以上